一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 2024年度休眠預金等活用事業「ひとりひとりに合った多様な学びを支える地域共生事業－お互いが伸ばし合う手を結ぶ支援と信頼の構築－」申請団体一覧

	団体名	所在地	事業名	事業概要
1	けいちくトイロ	福岡県行橋市	<p>子どもと家族の安心を育む地域支援プロジェクト</p> <p>安心とつながりを届けるしくみづくり</p>	<p>本事業は、学校に行かない・行けない子どもとその家庭が孤立せず、地域で安心して暮らし、多様な学びの選択肢を持てる社会の実現を目的としています。活動は「アウトリーチ」「地域」「学びの場」「組織基盤強化」の4つの柱で展開します。</p> <p>「アウトリーチ事業」では、不登校の子どもや保護者がそれぞれに合った学びや支援につながり、子どもが家においても安心して暮らせるようになることを目標に、保護者おしゃべり会の定期開催、訪問支援や個別相談、情報提供を実施します。「地域事業」では、啓発イベントや対話の場を設け、地域住民や関係機関の不登校への理解を深め、行政・学校・民間団体との協働を促進します。「学びの場事業」では、保護者・子どもへのヒアリングでニーズをくみ取り、既存の居場所との連携を通じて地域における多様な学びの場を可視化します。校外の居場所「自由クラブ」の実施や校内フリースクール実施への準備を進め、地域における学びの選択肢を広げます。「組織基盤強化事業」では、持続可能な運営体制を確立するため、スタッフ・ボランティアの増員と育成、活動拠点の整備、NPO法人化および財務体制の整備、SNS等を活用した広報・情報発信力の強化を図り、地域に根ざした活動の安定化と発展を目指します。これらの取り組みを通じて、子どもと家庭が「選択肢がある」ことを感じられ、自分らしい学びと暮らしを実現できる地域社会の形成を目指します。</p>
2	労働者協同組合 ワーカーズコープ・セクター事業団	福岡県福岡市	<p>つながる学びの森プロジェクト</p> <p>不登校の子どもたちへ届ける、学びの場とアウトリーチ支援</p>	<p>1. 不登校の子どもたちや保護者の居場所 1-①フリースクールの立ち上げ（週3日程度の開所）1-②不登校の子どもと保護者の居場所（週1回）1-③地域の人たちをはじめ不登校の子どもたちや保護者が集いやすい平日昼間の子ども食堂。居場所に来ている子どもたちのニーズに応じた関係機関との連携。</p> <p>2. 引きこもりや外出困難な子どもたちへの訪問支援（アウトリーチ） 居場所に来ていた子どもたちの中で引きこもりがちになっている子どもたちに加え、近隣の小中学校のスクールソーシャルワーカーや社会福祉協議会、地域の民生員会など連携し、アウトリーチ活動をおこない、1の子ども食堂・居場所などにつなげていく。</p> <p>3. 不登校をはじめとする子どもや保護者のカウンセリングルーム「よかよか相談室」の設置。保護者会の開催。社会福祉士、公認心理士が保護者の相談に応じ、心理的なサポートを行ったり個別のニーズに応じて学校や社会資源につなげていきます。また保護者同士の交流をつくります。</p> <p>自治会などの地域、学校、行政機関（子育て支援課・児童相談所）、社会福祉協議会、近隣の大学と連携し地域で不登校の子どもたちを支えるつながりの輪を作ります。そこから事業の行政委託や自主事業の経営につなげていきます。</p>

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 2024年度休眠預金等活用事業「ひとりひとりに合った多様な学びを支える地域共生事業－お互いが伸ばし合う手を結ぶ支援と信頼の構築－」申請団体一覧

3	一般社団法人 ころことばアカデミー	福岡県福岡市	<p>身近な心の居場所と支援の輪がつくる地域共生の取り組み</p> <p>地域の課題に合わせた取り組みが生み出す成長機会と街の絆</p>	<p>現在、一般社団法人ころことばアカデミーでは「原四つ角子ども食堂」を実施しておりますが、こちらの活動の質と量を向上させつつ、不登校支援や心の居場所づくりなど新たな活動を行って参ります。</p> <p>①原四つ角子ども食堂の質と量の向上。現在月2回の開催を月4回（毎週開催）の開催へと数を増やします。また、子ども食堂だけの開催だけではなく、おさがりマーケット（不用品譲渡会）、子育ての悩み相談などの同時開始、不登校児の来場の際のSSW、民生委員との情報連携など、子ども食堂を包括的支援の場に昇華させ質の向上へと繋がります。</p> <p>②不登校時支援（アウトリーチ）支援の開始。支援の手が行き届いていない不登校児に対して、ころことばアカデミーが支援者のハブ役となり、地域住民、行政、民間の情報連携と支援同行を実施し、不登校児のメンタルケアや学校に行く等のキッカケづくりに寄与する。具体的には、学校/社会福祉協議会/SSW/民生委員/公民館/地域住民との定期的な情報共有会議の実施、不登校児の自宅への同行訪問、イベント開催による外にできるキッカケの提供、学校との支援連携などを行い、アウトリーチを地域で積極的に行える体制を構築します。</p> <p>③無料開放スペース「心の居場所」の開始。ころことばアカデミーを10時～15時まで開放スペースとする。時間帯を分け「勉強」「相談」「対話」「学び」などが提供できる場所とする。</p>
4	一般社団法人 ColorFul-HappyFull	福岡県那珂川市	<p>社会とつながるはじめての一步を支える 伴走事業</p> <p>～「ほっと」できる環境で「楽しい」を 探求するために～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問支援をしたいが、春日市・那珂川市と連携出来ておらず、把握できていないのが現状である。助成を受けることで、春日市・那珂川市と連携を図り、不登校及び引きこもり状態の子ども達の人数や個人情報共有することが出来るようになり、よりの確に訪問支援することが可能となる。これにより、訪問支援につながる子ども達が増加し、学習する機会を得ることが可能となる。また、支援者と共に外出するなどし、子ども達が社会と接点を持つ機会を生み出すことが出来るようになる。 ・訪問件数が少ないため、保護者の孤立を防ぐこともできないのが現状である→助成を受けることで訪問件数が増え、保護者のメンタルケアを行うことが可能となる。これにより、ネグレクトや虐待のリスクを減らすことができ、子ども達が安心安全に家庭で過ごすことが出来るようになる。 ・フリースクール「カラフルハピフル」とつながることが出来た場合において、スタッフがボランティアであることから安定して活動できない状況である。これにより、一人ひとりに合った学習支援をすることが難しい。また、教材にお金をかけることが出来ていないことも課題の1つである。助成を受けることで、一人ひとりに合った教材を準備することが出来るようになる。また、広報活動等を行うことで優秀な人材が集まり、給与を支払うことで人材が確保でき、子ども達が安定した環境下で学習を行うことが可能となる。

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 2024年度休眠預金等活用事業「ひとりひとりに合った多様な学びを支える地域共生事業－お互いが伸ばし合う手を結ぶ支援と信頼の構築－」申請団体一覧

5	特定非営利活動法人 Scuola dei Bambini	福岡県北九州市	<p>子どもがそのまま受け入れられる、学びと居場所の地域共生型支援事業</p> <p>子どもたちの「知りたい」「生きたい」に寄り添う、多様な選択肢と温かなまなざしのある地域づくり</p>	<p>本事業は、多様性が尊重され、ありのままの個が受け入れられる社会の中で、自己効力感が高まった子どもたちが幸福度高く成長し、将来的に社会課題を主体的に解決できる担い手となることを目指して実施されます。特に、経済的困難や不登校などの困難を抱え、かつ既存の支援が十分に届いていない子どもたちを対象とし、適切なアウトリーチにより支援を届け、安心できる関係性と多様な居場所・学びの選択肢を提供します。</p> <p>子ども自身が自らの意思で学校・居場所・地域社会に触れながら、自立的に歩む力を育めるよう、保護者や地域の大人との継続的な対話の機会を設け、支援を一過性のものにせず、包括的な地域共生の仕組みとして構築します。また、教育を継続する上で経済的ハードルとなる家庭に向けて、給付型奨学金制度を設計・試運用し、助成終了後も持続可能な形で継続できるよう、制度・資金調達の見直しも取り組みます。</p> <p>さらに、モンテッソーリ教育の視点を活かし、地域住民向けの無料講座を開催。子どもが内発的な「学びたい」「貢献したい」という力を引き出す関わりについて発信し、子どもに優しい地域文化の醸成を図ります。教育・相談・ファンドレイジング・会計の各分野に人材を適切に配置し、質の高い支援を安定的に届けられる運営体制を構築。制度の狭間にある家庭に学びと安心を届ける、地域共生型支援モデルの確立を目指します。</p>
6	一般社団法人 どんぐりと山ねこ舎	福岡県糟屋郡	<p>学びの多様化地域手つなぎ事業</p> <p>～かすかな隙間に手を伸ばす～</p>	<p>学校に行けない・行かない小中学生とその保護者の中でも特に、いずれの支援にもつながっていない親子が、社会とのつながりを持ちながら安心して暮らし、自分に合った学びや居場所を自由に選べるよう支援する。特に、公的・民間の支援につながらない家庭を対象に、アウトリーチ型での支援を行う。具体的には、専門スタッフによる定期的な家庭訪問の実施、子どもの発達状況・関心に応じた個別生活支援、学習支援、自然体験の機会などの提供、保護者向け相談や不登校理解、制度活用、学びの選択肢などの情報提供。また、不登校に対する理解が地域全体で深まり、子どもと保護者が安心して「自分の居場所」を選べる地域づくりを進めるために、地域・学校・支援団体との協働を通じて持続可能な仕組みを構築する。具体的には地域住民や関係機関向けの勉強会（不登校の多様な背景と子どもの権利について）の開催、子どもや保護者の声を可視化する場づくり、地域のこども食堂・公民館・社会福祉協議会・地域ボランティアとの協働による支援活動（集える場づくり、送迎、話し相手など）、他フリースクールとの情報共有による子どもと学び場のマッチング。また、自団体が中長期的に活動を継続できる基盤を構築し、信頼される組織運営を実現するためのスタッフ研修の充実や、これまで取り組めなかった活動評価指標の整備と定期的な自己評価・第三者評価の導入、多様な財源確保戦略を実施する。</p>

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 2024年度休眠預金等活用事業「ひとりひとりに合った多様な学びを支える地域共生事業－お互いが伸ばし合う手を結ぶ支援と信頼の構築－」申請団体一覧

7	認定特定非営利活動法人 ミタイ・ミタクニヤイ 子ども基金	福岡県福岡市	子どもの希望・エスペランサプロジェクト ～子どもがりのままでいられる多様な居場所づくりを通して～	<p>福岡市早良区にある駄菓子屋エル・パライソは、前身在17年続いた駄菓子屋であり、子どもたちの居場所となっていた。2020年度より、学習スペースや国際理解教育を加えた子どもの居場所として機能している。これまでに、駄菓子屋と学習スペース、夜の居場所、おむすびの居場所、国際理解教育を行ってきた。子どもたちの中には、不登校やヤングケアラー、外国につながる子どもたち、経済・社会的課題を抱えた子どもたち、経済的には恵まれていても家庭や学校に居場所がないと感じる子どもたちも含まれている。中には自殺未遂をした子どももあり、駄菓子屋の空間が命をつなぐ場所になったこともある。</p> <p>本事業では、上記の活動に昼の居場所を追加で加える。1年目は不登校の子どもや保護者へのアウトリーチを行う。また、保護者会なども開始する。2年目は、これまでの活動に加え、昼の居場所の活動を定着させ、多様な学びの場を展開する。3年目は、学校や他組織とも連携を図り、フリースクールのような単位認定を模索する。また、助成金終了後の持続可能性を担保するため有料の居場所についても検討していく。本事業では、事業終了後5年後に、駄菓子屋エル・パライソが福岡市早良区地域において居場所として機能し、受益者である子どもたちひとりひとりが自分に合った多様な学びの場を見つけ、ありのままの状態ですらしく安心して過ごすことのできる空間を確立する。</p>
8	特定非営利活動法人 mixjam	福岡県直方市	福岡県直方地域における”こども×ウェルビーイング”共創プロジェクト	<p>本事業は、生まれ持つ家庭環境・経済状況・発達特性などの違いにかかわらず、「すべての子どもたちが自分の心を大切にし、個性と能力を存分に発揮できる社会」の実現を目指すものです。現在の私たちの事業ではまだ行き届いていない「学びの場づくり」に取り組みます。</p> <p>具体的には、まず自治体からすでに届いている潜在的支援対象者の情報を手がかりに、制度の狭間にいる子どもたちへのプッシュ型支援を行いながら幅広いアウトリーチに繋げ、一人一人に合った学びが選択できる環境を早急に整備します。彼らが家においても衣食住が満たされ安心して、自分の未来への関心が湧いてくるようなアウトリーチ活動から、子どもたちが地域とつながり、自分にあった学びの形を選びそれを試しつづけられる環境づくりに尽力します。また、不登校・発達障害・家庭の困窮などにより既存の学校教育にフィットしづらい子どもたちに対し、民間のフリースクールを新設し、子どもたちそれぞれのペースにあった学びの機会を提供。その取り組みを地域の学校とも連携した、校内の居場所や学び場づくりに発展させます。</p> <p>また、学び場づくりの中で、子どもたち自身がまちづくりに参加する機会を創ります。子どもたち自身が地域をつくる一員として力を発揮するなかで地域のさまざまな人たちと繋がり、自らの存在を肯定し自己有用感を育て、自信と希望を持って未来を生きていけるような取り組みを企画し実行します。</p>

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 2024年度休眠預金等活用事業「ひとりひとりに合った多様な学びを支える地域共生事業－お互いが伸ばし合う手を結ぶ支援と信頼の構築－」申請団体一覧

9	一般社団法人 OMUTA BRIDGE	福岡県大牟田市	ミライスイッチ・ネットワーク事業 みんなで伴走する子どもたちが自ら描く可能性	本事業は、不登校の子どもが家庭・学校・地域で多様な人々と出会い、経験を通じて自己理解を深めながら、自ら選んだ学びに伴走できる新たな連携モデルを共創する。 その三つの柱として、第一に「ライフサポーター」を育成し、要対協ケース等の家庭にアウトリーチで伴走しながら生活スキルを学ぶ機会やICT学習支援を行うことで、在宅時の学びや生活経験を支える実践モデルを構築し政策提言に繋げる。第二に「啓発と研修」により年間20人規模で担い手を育成し地域支援の強化と継続性を図る。第三に「ハートフルメンター」となる地域人材を校内教育支援教室に配置し、教員・地域・企業・NPOが参画するチームを結成。多様なロールモデルとの出会いや体験的学びの機会を共創することで、市民一人ひとりが子どもの育ちに関わる担い手となり、相互の関係性の中で育ちを支える社会モデルへの転換を図る。 これらの取り組みを通じて、子どもたちが孤立せずに自らの意思で学びを選び取るプロセスを支え、その中で子どもの変化に触れながら大人も変容していく「共育ち」の循環が生まれる。地域変容と制度変容が連動することで、包摂的で持続可能な教育環境の実現をめざす。そして個別支援から地域協働体制の構築、制度提案までの流れを形成し、多様な学びへのアクセスや自己肯定感の向上を実現し、子どもが未来を選択する力を育む地域社会の形成を目指す。
10	NPO法人 産の森学舎 〈コンソーシアム申請〉 特定非営利活動法人いとしま児童クラブ	福岡県糸島市	こどもと大人に地域で寄り添う amiプロジェクト つながりの”あみ”を広げ 一人ひとりを認め合える糸島へ	本事業は、不登校状態になっており誰ともつながれていない子どもが、そのことで自分を否定することなく、家でも学校でもどこにいても自分らしい過ごし方・学び方を主体的に選択でき、安心して自分らしく幸せに生きられることを目指す。そのために従来一本ずつだった支援の糸がつながり結び合い、子どもと家族を支える「網」となり、また、一人ひとりを認め寄り添う「ami（フランス語で友だちの意）」のように身近で温かい地域社会となることを目指す。民間主導の当事者に寄り添った支援を、他機関と連携しながら展開、子どもの多様なニーズに多様な大人が寄り添う。地域全体で不登校に対する理解を深め、子どもの多様性を尊重する。親も子ども不登校について話せる場が地域にあり、悩みや不安を和らげ子どもの多様な状態を認めることができる。 具体的には、①「メンタルフレンド事業」で、引きこもり状態の子どもが家にいても他者と関わり安心して過ごせるよう、訪問学習・生活支援を行う。②家から出たくない、または対面で話したくない子どもでも参加しやすい「オンラインお話を会」を開催し、他者と関わる機会をつくる。③「子どもが安心して自分らしくいられる場」を学校内外に充実させ、過ごし方・学び方の選択肢を増やす。④多様な過ごし方・学び方の理解を地域が深める学びと対話の機会を創出する。⑤親の会等他の民間団体と連携し、親も子ども誰かとつながりを持てる地域をつくる。

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 2024年度休眠預金等活用事業「ひとりひとりに合った多様な学びを支える地域共生事業－お互いが伸ばし合う手を結ぶ支援と信頼の構築－」申請団体一覧

11	きじむな農園合同会社 教育事業部サンライズス クール	福岡県糸島市	糸島市不登校児童生徒夢創生プロジェクト 将来の夢の実現と自立につながる多様な 教育の実現を目指して	不登校の児童や生徒の中で公立・私立の小中学校やフリースクール等にて学ぶことができていない児童や生徒（以下対象とする）に対して以下の施策を行う。①対象者把握のため、対象地域の小学校・中学校を定期訪問し当事業への協力を仰ぎ、対象者を把握する。②情報提供を得られない対象者からのアクションを促すため、対象者やその保護者や家族等に学校以外に学びの場や居場所があることを知ってもらうため、ネットやラジオやTVなど多様なメディアを活用した情報発信を行う。③把握できた対象者については家庭を定期訪問し、現状について聞き取り・相談を行い、様々な学習支援・心理ケアを行う。④学習指導については、希望に応じて対面またはインターネットを使用したリモート授業にて、自宅もしくは当スクールの教室のいずれか又は両方で行う。⑤当スクールの利用を促進するため、一般的なフリースクールが実施している国数社理英の主要5教科の学習サポートに加えて、対象者らの興味を引くような様々なイベントや体験学習を開催していることを告知し、対象者の引きこもり状態からの脱却を目指す。⑥個人・団体・企業に対して当スクールの活動趣旨を説明し、子供たちのための様々な講座やイベントの開催に向けた協力を依頼する。⑦義務教育または高校教育を終了した後も継続して、就職や進学または独立開業に役立つ資格や技術などが身につく体験学習や本格的な研修講座を開講する。
12	株式会社 Teacher Teacher 〈コンソーシアム申請〉 一般社団法人コンコン	福岡県福岡市	中継地点型ラーニングコミュニティ「コンコン」	株式会社ティーチャーティーチャーは2024年3月からオンラインを活用した不登校支援や保護者のエンパワメント、学びのコミュニティづくりを行ってきました。今回の申請では、非営利法人である一般社団法人コンコンを新たに設立し、2社によってティーチャーティーチャーコンソーシアムを設立することで従来の取り組みを草の根活動としてより地域に根ざしたものへと進化させます。これまで試行的に行ってきたオンラインでの支援を、SSWや教員経験者などの専門人材と連携し、リアルとオンラインを組み合わせた体系的支援に拡張します。また、事業運営を営利法人から非営利法人へ段階的に移行することで、公的性・透明性の高いガバナンス体制を構築し、地域や他団体との連携も強化します。 まずは福岡市アイランドシティの照葉はばたき公民館と連携し、リアルとオンラインが連携した支援モデル形成に取り組みます。「Ⅲ.事業の背景・課題」に記載いたしますが、従来のフリースクールだと運営人員1人に対して生徒数が数名に限定されていたが、「地域住民との連携」「リアルとオンラインの連携」「訪問看護や高校進路支援との連携」によって、1つの地域の500人にとってセーフティネットとして機能できるモデルを目指します。 一般社団法人コンコンは現場実施・学校や地域施設との関係構築を担い、株式会社ティーチャーティーチャーは事業管理・広報・民間連携を担う体制です。

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 2024年度休眠預金等活用事業「ひとりひとりに合った多様な学びを支える地域共生事業－お互いが伸ばし合う手を結ぶ支援と信頼の構築－」申請団体一覧

13	<p>NPO法人 TEAM GIFTED</p> <p>〈コンソーシアム申請〉 西日本メディカルサービス株式会社 株式会社サイエンスグループ</p>	福岡県福岡市	発達障害等の理由により孤立する児童生徒および保護者を支援するための仕組みづくりプロジェクト	<p>本事業は、発達特性により教育や心理的支援が届きにくい子どもたちとその保護者を対象に、地域の教育機関による支援を補完・強化する仕組みを構築することを目的としています。NPO法人チームギフトド（幹事団体）を中心に、他2社の協力と本助成金を活用して、従来の規模や属人的な制約を超え、各地の教育機関と密接に連携した児童生徒支援の仕組みづくりを目指します。これにより、従来以上に多様なニーズに対応した質の高い支援を提供し、支援を受ける子どもや保護者の数を大幅に増やします。</p> <p>まず教育機関への働きかけとして、従来から行ってきた講演会や研修活動を一層充実させ、全国の教育機関やPTAなどと積極的に連携を図り、発達障害支援に関する実践的な知見やノウハウを提供します。また、児童生徒や保護者に対するセラピー・カウンセリング体制をさらに強化するために、GIFTEDの知見や物語療法を取り入れた新たなツールを開発・導入します。これにより、セラピーやカウンセリングの効果を高めるとともに、地域のカウンセラーにもこのメソッドを共有し、支援体制の質的向上を目指します。</p> <p>さらに、地域や教育機関との定期的なフォローアップを実施し、活動成果の評価・共有を通じて継続的な改善を図るほか、動画サイト等を活用した情報発信によって学習障害に対する社会的な認知と理解を広める啓蒙活動にも積極的に取り組んでいきます。</p>
14	スペアタイム	福岡県北九州市	フリースクール スペアタイム	<p>不登校に関する勉強会や個別の相談会を地域のコミュニティや学校のPTAなどとの協働で開催し、不登校やそれに悩む家族が目立たない形でスペアタイムとつながる機会を作る。同時に不登校児童を抱える家族だけでなく、その周辺の人々から情報を集め、声を上げられない家庭にも繋がれる環境を作り情報提供する。不登校や学校・子育てに悩みを抱えているご家庭への情報提供や訪問により学習や不登校児の進路だけでなく、家族の健康・精神的なケアや経済的不安など総合的に解決できるように行政や他の支援機関との連携を計る。（地域のPTA・祇園祭実行委員会・市民センター・社会福祉法人等）</p> <p>同時に不登校やその周りの家族にアンケート調査を実施し不登校の実態を数値化していく。</p> <p>学習や進路指導などの児童の支援はスペアタイムが行う。学習指導だけでなく、ボランティア活動や地域での活動を通して町の中に居場所を作る。例えば、祭りの実行委員などに参加したり、地域の美化活動に参加するなどして家やフリースクール以外にも居場所を増やし活動の幅を広げて行けるよう支援する。</p>

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 2024年度休眠預金等活用事業「ひとりひとりに合った多様な学びを支える地域共生事業－お互いが伸ばし合う手を結ぶ支援と信頼の構築－」申請団体一覧

15	<p>一般社団法人 あさ・くる</p> <p>〈コンソーシアム申請〉 NPO法人フリースペース よつば</p>	福岡県朝倉市	<p>朝倉地域の子どものエンパワメントにつながる多面的支援体制の構築事業</p>	<p>朝倉地域で年々増加傾向にある不登校児童・生徒とその保護者に対して、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学びやつながりへのアクセシビリティ向上（アウトリーチ） 2) 安心を育む教育相談（質の向上） 3) 多様な状況に対応可能な居場所の新設、および環境の整備 <p>を行う事業。朝倉地域で2015年より不登校児童・生徒の居場所および自立支援の活動を続けている「フリースペースよつば」とコンソーシアムを組み、これまでの経験を生かしつつ、学校や教育機関、地域と連携しながら、子どもたちを重層的に支えていくネットワークの構築を目指す。主な活動計画は、以下の通り。</p> <p><アウトリーチ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、学校内に相談所を設け、子どもの声を拾いやすい環境を作り（子どもアドボケイト）、保護者の相談にも応じる。実績をもとに、実施校を増やす ・支援の行き届いていない家庭を訪問し、相談対応や学習支援を行う ・地域のキーパーソンとチームを作り、支援体制を整える <p><相談の質的向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談研修の開催 <p><居場所新設および環境整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリースペースよつばの別室に新たな居場所を新設する ・「までらばけっと」の新設および環境整備 <p><ネットワーク構築></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への理解促進のための広報活動 ・子ども食堂ネットワーク会議 ・関係者連絡会（準備会）
16	<p>特定非営利活動法人 メイクハッピー&ピース</p>	福岡県宗像市	<p>ムーブ・リンク</p> <p>～こころとまなびとつながりのプロジェクト～</p>	<p>本事業は、不登校や困難を抱える子どもとその家族が子ども・若者が自分に合った多様な学びを選択・継続できる基盤を地域に整備することを目的に、アウトリーチとフリースクールムーブの運営、地域ネットワークの構築、組織基盤の強化を柱として実施する。</p> <p>アウトリーチでは、心理士・福祉職による訪問支援では、支援にアクセスできていない家庭と丁寧につながり、孤立の予防や信頼関係の構築を図る。</p> <p>フリースクールムーブでは、個別最適な学びや他者との関わりを支援し、子どもが自らのペースで学び、将来を描けるようサポートする。また、家族に対しても相談支援を行い、安心できる環境づくりを支援する。</p> <p>さらに、学校・行政・福祉・医療・大学・地域住民など多様な関係者と連携し、地域全体で子どもと家庭を支えるネットワークを構築する。あわせて、支援者の育成や運営体制の整備にも取り組み、地域の持続可能な支援につなげる。</p>

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 2024年度休眠預金等活用事業「ひとりひとりに合った多様な学びを支える地域共生事業－お互いが伸ばし合う手を結ぶ支援と信頼の構築－」申請団体一覧

17	一般社団法人 KATARU 〈コンソーシアム申請〉 公益財団法人筑後市文化 振興公社	福岡県筑後市	ちっご学びの広場プロジェクト ～誰も取り残さない、地域共育のまちへ～	私たちの事業は、「生き抜くチカラをつけるために、学ぶココロを取り戻せる環境」をコンセプトに、すべての子どもが笑顔になり、学ぶ楽しさを実感できる新しい学びの場を提供します。 学校に馴染めなかったり、不登校の状態にある子どもたちに寄り添いながら、「学ぶって楽しい」と思える体験を届けることを目指します。 活動の中心となるのは、民設民営図書館「みんとしょかたる」です。ここを拠点に、オンラインや訪問支援も活用しながら、地域の大人たち「カタリスト（一般社団法人KATARUのサポーター）」が、特技や経験を活かして子どもたちに多様な学びの機会を提供します。 学習支援では、イェナプラン教育の考え方を取り入れ、子ども自身がテーマや学ぶ時間を選び、探究型の学びや教科学習をサポートします。 さらに、地域活動や企業見学などを行い、生活力やコミュニケーション力、自己管理能力などの「生きる力」も育むことを大切にしています。 また、地域、行政、企業、保護者がともに教育を考え支える「ちっご共育委員会」を設置し、学校に限定しない多様な学びの選択肢を地域全体で広げていきます。 これらの取り組みを通じて、子どもたちが自己信頼感や自己有用感を取り戻し、自分らしく自律して生きていけるよう支援します。
18	ほしのこども学舎	福岡県糟屋郡	「農×福×育」連携による地域共生型アウトリーチモデル構築事業 -それぞれの学びの形を認め合う社会-	【基本コンセプト】本事業は、農業・福祉・教育の3分野が連携し、不登校児童への新たな支援システムを構築する。3分野が抱える普遍的課題（農：担い手・人手不足／福：担い手・就労先不足／育：学習機会不足）を相互補完する強固な関係性が、不登校支援の安定的な基盤となる。農業が「はたらく場所・まなぶ場所」を、福祉が「障がいを抱える方の底力・高齢者の知恵」を、教育が「未来の担い手」をそれぞれに提供し合う互恵関係を基軸に、子どもたちの社会参加や所属をサポートする。 【具体的取り組み】①魅力的な居場所づくり：「平日おしごと農業」におけるプロ農家との農業体験、特別養護老人ホームでの「さんすまいる祭り」における出店や世代間交流、「よくばり体験パレット」での多様な体験学習など、子どもたちが自ら望んで「行きたくなる場所」を提供する。 ②段階的アウトリーチ支援：子ども食堂・親の会などの「信頼できる身近な大人」を介した間接的な声かけを起点とし、①への活動参加を通じて信頼関係を築きながら段階的に直接支援へ移行する複層的制度により、これまで支援が行き届いていなかった子どもへの慎重なアウトリーチを図る。 【持続可能性と全国展開】農業クラブの有料会員制度、福祉施設とのイベント協働運営、放課後等デイサービスの機能付加等により収益基盤を確立。運営マニュアルなどの成果物無償提供により、全国の地域団体での展開を実現する。

※申請順